

週刊大貫のり夫

市政ファイル No.516

日本共産党横浜市会議員大貫のり夫議会報告

発行日：2016年3月16日（水）

事務所：〒227-0061 横浜市青葉区桜台29-6



私・大貫が政策局で質問

インフラよりも子どもを支えるソフトの整備を

2016年度予算特別委員会政策局審査で、私・大貫は、指定管理者制度および横浜経済の振興について、質問しました。

私・大貫は、2月に行われた予算代表質問で、将来への大胆な投資が経済的な効果を生むかどうかは非常に疑問だと述べました。政策局の審議では、「大胆な投資」の具体的な例として横浜環状道路や国の国際コンテナ戦略港湾に沿った横浜港の整備をあげ、これらが具体的に横浜経済にどのような効果をもたらすかと質問しました。

(2面に続く)



大貫 憲夫 委員
日本共産党 青葉区

2016年度予算特別委員会政策局審査で質問する私・大貫＝3月7日横浜市役所大会議室

無料法律相談

4/7・21 (木)

予約制 (大貫)
090-5311-1879

大型公共工事への「大胆な投資」が 経済的な効果を生むのか

(1面より)

政策局長は、横浜環状道路は横浜市内外の物流を活発化するとともに、それによって企業誘致や進出企業による雇用の創出が生まれ、横浜経済の3割を占める港の整備は重要だと答えました。

それに対して、私・大貫は、高速道路網の整備により物は回るようになるかもしれないが、それが経済を

活性化する保障はなく、横浜港の輸入と輸出は6対4の割合で、コンテナの7割は市外に出て行っており、「大胆な投資」に対する効果は少ないと指摘。そして、高速道路や国際戦略港湾などのインフラをつくっても横浜の経済にはあまり効果はなく、むしろ、横浜の未来を支える子どもたちのためのソフトの充実を図るべきだと主張しました。

総合特区予定エリア



左：東京が都心部を中心としてアジアヘッドクォーター特区で進める再開発プロジェクト

下：横浜港における内陸輸送の送付パターンの比率と市内帰属予想（横浜市港湾局が外部委託して作成した「横浜港の経済効果調査委託報告書」より）

		比率	コンテナ輸送想定距離 (Km)
輸出	市外	58.0%	100
	市内	15.0%	10
	埠頭地区	27.0%	5
輸入	市外	64.5%	100
	市内	13.1%	10
	埠頭地区	22.4%	5

シリーズ『あおば子育て事情』(187)

あいうべ体操

江口 寛



「あいうべ体操」でインフルエンザ予防の効果をあげている小学校が報道されました。「あいうべ体操」に取り組む前は3分の1以上の児童が罹患していたのが数%に改善しているそうです。

「あ〜」と口を大きく開く。口を楕円形にイメージし、のどの奥が見えるまで大きく開ける。

「い〜」と口を横に開く。前歯が見えて頬の筋肉が両耳のわきに寄るくらい横にグッと開く。

「う〜」と口を強く前に突き出す。唇をとがらせて前方に、口の周りの筋肉を収縮させる。

「べ〜」と舌を突き出して下に伸ばす。少し痛いかもしれませんが、刺激を感じるころまでやる。

これで1セット、1回10セット1

日3回を目安に続けます。知らず知らずに口呼吸が鼻呼吸に改善され、鼻毛や鼻汁がばい菌をブロックするからだそうです。それだけではなく、口呼吸より酸素が3倍取り入れられ脳の活性化もはかれるとのこと。

いびき、小顔、歯ぎしりに効果。皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アトピーも治る。高血圧、花粉症、リウマチ、潰瘍性大腸炎、無呼吸、うつ病も改善。

ちょっと、誇大広告のようですが、効果がなくてもタダ。だまされたと思って試してみませんか。会議が行き詰った時なんか、「あ〜い〜う〜べ〜」と、みんなでやると意外な効果も期待できそうです。



斉藤和子衆院議員

日本共産党演説会

4月2日午後2時から

青葉公会堂ホール

弁士 斉藤和子衆議院議員

あさか由香参院神奈川選挙区予定候補

椎葉かずゆき比例代表予定候補

詳しくは日本共産党青葉区委員会902-6540

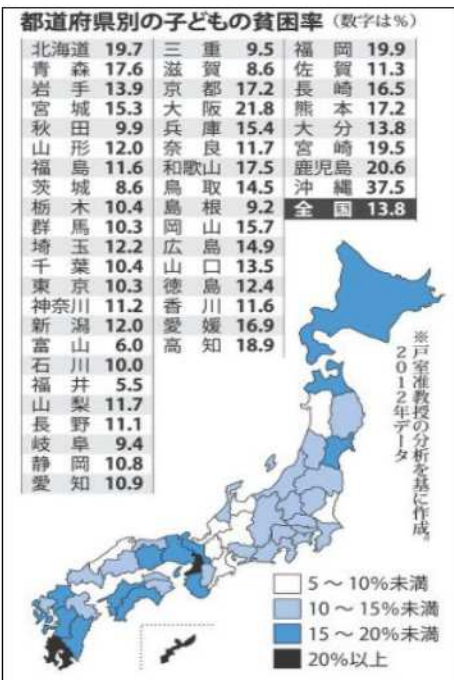
子どもの貧困 6人にひとり

子ども食堂など緊急対策が急務

子どもの貧困は深刻です。子どもの貧困率は16.3%、ひとり親家庭の貧困率は2012年の統計では54.6%と、OECD加盟34か国中最悪となりました。横浜市にとっても貧困は他人ごとではありません。

市長は、「子どもたちは、次の世代を担う宝です。その未来が、家庭の経済状況によって左右することはあってはなりません」として、実効ある施策で支援が確実に届くよう取り込むと述べています。しかし、新年度予算に計上された子どもの貧困対策予算108億円は、児童扶養手当105億円を除くと4億円にしすぎません。

いま、経済的理由で十分に食事がとれない子どもたちや、ひとり親家庭で孤食状態にある子どもたちの支援のために、NPOなど民間による「子ども食堂」の開設が各地で始まっています。本市においても直営の



2月18日付日新聞より転載

「子ども食堂」設置を含め、民間とも協力し、生活や学習支援をはじめ、子どもの貧困対策をいっそう強めるべきです。



メダカの独り言 最近流行の「スー
プジャー」。保温
技術が高まり、時間が経ってもホッカ
ホカ。専門のレシピ本もあって、美味
しい野菜スープなど簡単に作れて持ち
歩ける。ただいま、野菜スープのスー
プジャー弁当でダイエット中。(K)